

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	翔～Q～			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～	令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援の充実、活動内容の充実。	個々に合わせた個別支援に取り組んでおり、それぞれの嗜好や強みを活かした内容を職員間で話し合いながら進めている。また、活動内容については、様々な体験を通してたくさんの刺激や経験が利用者様の成長に繋がるように、四季を通して様々なバリエーションを取り入れながら計画をしている。	個別支援については、言語聴覚士を中心に、言語発達訓練・発声発語訓練・摂食嚥下訓練について取り組み、1人1人のニーズにあった支援の提供を行っている。また、「数字の勉強」「言葉あそび」の活動の時間を設けて、楽しく学んでもらえるようにグループ（集団）で言語に関する取り組みを行っている。
2	利用者様の適応行動の状況を行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントにて確認できている。支援開始前の職員間打合せで支援内容を確認し、チームで連携することで計画通りの支援を行っている。	個別支援会議や日々の振り返りを通じて利用者様の状況を職員が共有するようにしている。毎朝当日担当の職員全員で朝会を行い、送迎・活動・利用者支援の内容や各自の役割分担を確認してから支援を行っている。また、状況が気になる利用者様の対応についても朝会等の話し合いの場を設けている。	会議や日々の振り返りだけでなく、標準化されたツールを利用して、個別支援・支援内容等さまざまな内容の把握ができるようにしており、利用者様の状況を職員同士が同じ基準で共通理解が図れるようにしている。
3	学校・家庭との共通理解が図れるようにしている。	学校お迎え時を利用して、利用者様の様子（個別支援内容含む）情報を先生にお伝えして、学校との共通理解が図れるようにしている。また、保護者様にも、標準化されたツールを利用して、個別支援・活動等の利用者様の様子をお伝えしている。利用者様の困りごとが起こった場合も送迎時・電話等を利用して、保護者様の意見を聞きながら丁寧に対応している。	学校・家庭には常に情報提供を行いながら支援に努めている。夏休みに行われる学校訪問は積極的に受け入れをして、Qの取り組みを先生方に周知して頂き、家庭・学校・放課後等デイサービスの三位一体で利用者様に対応できるように取り組んでいる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対して、家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会は、なかなか設けられていない。	事業所としては、送迎時を通じて、各ご家庭のお問い合わせ等都度情報提供を行い、家庭での利用者様の困りごとに対するアドバイスや家庭と事業所で共通理解を図り、より良い支援に繋がられるようにしている。あくまでも個別の対応で行っており、家族が参加できる研修や情報提供の場を設けていないのが現状である。	家族の方も参加できるように研修の機会や情報提供の場は設けられていない為、保護者様にも学ぶ機会や情報提供の場が作れるように取り組みたい。
2	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営ができていない。	コロナ禍の流れから、地域の方（放課後等デイサービス含む）との交流は控えており、年に一回の奉仕作業をQ独自でおこなっている。なかなか、地域の方との触れ合う機会が設けられないのが現状である。	近くにある放課後等デイサービスの利用者様と一緒に遊ぶなどの交流を設けるようにする。
3	児童発達支援センターと連携しスーパーバイズの助言や研修を受ける機会を設けられていない。	相談支援専門員の方とは、担当者会議や電話での対応を通して常に連携が図れているが、児童発達支援センターの方と面識を持てる機会がないのが現状である。	児童発達支援センターにお問い合わせをして、どのようなシステムで研修を受ける機会が設けられるのか確認をして検討したい。